

# 要旨

## コロナ禍における音楽との関わり方

氏名：田子大樹

本論文では、コロナ禍以前とコロナによるパンデミック後の人々やアーティストの音楽への関わり方の変化や、ライブハウス、フェス会場が受けた影響などを調査、比較、考察し、今後私たちが音楽にどのように関わっていくべきかを考察した。

第2章ではコロナ禍以前のフェス、ライブハウスの様子から新型コロナウイルスが蔓延する前のフェスやライブハウスでどのような形でライブが行われ、人々がどのように音楽イベントに関わっていたのかを述べた。コロナ禍以前はライブやモッシュに加え大声で声援を送っていた観客らが、コロナ禍になってからマスクを着用しソーシャルディスタンスを保ち、声も出さずに演奏を見るようになった点が特に大きく変わった点であった。

第3章ではコロナ禍の音楽フェスの開催状況を調べ、新型コロナウイルスの蔓延によってフェスの開催にどのような影響があったのか述べた。代表的なフェスとして、ROCK IN JAPAN FESTIVAL や VIVA LA ROCK、FUJI ROCK FESTIVAL など取り上げて調査した結果、多くのフェスが新型コロナウイルスの影響で2020年の開催を中止しており、2021年には開催というケースが多かった。

第4章では各ロックフェスの感染予防対策ガイドラインを比較し、フェスごとにガイドラインに違いがあるのを調査し述べた。全てのフェスにおいて検温や消毒、換気を徹底して行っていたが、チケットを電子チケットのみにしてスタッフと来場者の接触を減らしているフェスや、入場するために新型コロナウイルスワクチンの2回接種の完了と、それを確認できる書類（ワクチン接種証明書、2回の接種完了が分かる接種券、記録書、接種済証）のいずれかの持参、または公演参加72時間以内に検体採取した結果が陰性であり、陰性を証明する書類の提示が必要となっているフェスもあった。

第5章ではコロナ禍で増えていったオンラインライブについて調査し、新型コロナウイルスが蔓延し始めた2020年は特にオンラインライブを行うアーティストが非常に多く、在宅ワークや学生のリモート授業、オンラインでの就職活動など私たちの生活がコロナ禍になって大きく様変わりしたように、ライブやロックフェスも有観客で開催されていたものが無観客でのオンライン配信という形式で行われるようになり、音楽ファンもアーティストも関わり方が変化していった。

第6章では、各ライブハウスでの感染症対策を比較した。ライブハウスでもフェス会場と同様に検温や消毒、換気などが徹底して行われ、会場ごとに大きな点などは見られなか

った。

本論では、コロナ禍において人々やアーティストの音楽への関わり方の変化や、ライブハウス、フェス会場が受けた影響などを調査、比較してきたが、観客側もアーティスト側も大きく関わり方が変化したことが分かった。ライブもフェスも徐々に開催されるようになってきたが、守らなければならないルールは多く存在し、コロナ前の状態に戻るのはまだまだ先になるのではないかと思われる。本論文で調査したフェスでは開催後のコロナ感染者やクラスター発生の報告はされておらず、それは観客やスタッフ、アーティストが感染拡大防止に尽力し成しえた結果であるだろう。今後の音楽シーンの為にも、我々はライブハウスやフェスでのルールやガイドラインを遵守し、新型コロナウイルスの脅威が収束するまで我慢し共存していく必要がある。